

2021年度
青山学院大学
FD 活動報告書

青山学院大学全学 FD 委員会

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院 スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人ともに仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学すべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、
時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

2021 年度 青山学院大学 FD 活動報告書 目次

1. はじめに	1
2. 本年度活動一覧	2
3. 授業改善のための学生アンケート	3
4. 学生意識調査	10
5. FD 研修会	13
6. その他の FD 活動	15
7. 諸規則	31
8. 全学 FD 委員会 委員一覧	33

1. はじめに

全学 FD 委員会委員長
副学長 内田 達也

FD (Faculty Development) 活動は、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」と言われます。その取組みの中心は、FD の文字通り教員・教員集団 (Faculty) の能力開発にあります。つまり、より良い教育活動のために、教育の受け手である学生に焦点を当てるのではなく、教育の提供者である教員や教員集団に焦点を当てるのが FD 活動の本質です。教育活動は単純なサービスの売り買いとは違い、教員と学生との共同的な営みによって成果が得られるものであり、教員側の「改善」が必ずしも成果の向上につながるとは限りません。また、「成果」の測り方についても様々な議論があるでしょう。FD 活動は、ゴールが見えず方法も確立されていない骨の折れる活動です。しかし、だからそれを無意味だと考えるのではなく、活動のなかにある様々な懐疑を前提に、それでも骨を折ることが教育成果に繋がるのだという、ある種の信念に基づく活動です。

今日、FD 活動の範囲が拡大しており、それは大学の諸活動が教員個人の活動の集合だけでは成り立たないことを物語っています。本学の FD 活動は個々の教員の自発的な授業改善から始まり、次第に組織的な授業改善や教育支援活動へと展開されてきました。授業アンケートに基づく授業改善、各種の研修事業、科目ナンバリングなどを通じたカリキュラム改善などです。また、今日では、授業のみならず研究や社会貢献についても、FD の領域が広がってきました。これらの取り組み内容は、年度ごとに学部・研究科単位で取りまとめた FD 活動報告として蓄積・共有され、組織全体の財産となっています。この報告書が、個々の教員が教育改善を考え、実践するにはもちろん、他の教員と教育改善について検討・議論するための一助となれば幸いです。

この2年間、新型コロナウイルス感染症拡大によって、私たちはさまざまな問題に直面し、その対処のために議論を行い、決定をしてきました。遠隔授業における機器の選択やその操作方法、遠隔授業での授業方法、遠隔授業における著作権の取り扱い方などです。私たちは、この間ずっと FD 活動を続けてきたと言っても過言ではありません。今後、この2年で得た経験と知見を十分に生かし、ポスト・コロナ時代の教育のあり方はどうあるべきかを念頭におきつつ、より豊かな、質の高い学びや研究の実現をめざしてゆきたいと思えます。

2. 本年度活動一覧

○ 2021年度 月別活動一覧

	委員会開催	学生意識調査	授業改善のための 学生アンケート	FD研修	SD研修	全国私立大学 FD連携フォーラム	関東圏FD連絡会
4月	4月21日 ①全学FD委員会	4月1日～5月31日 学生意識調査(1～3年生) 実施	前期アンケート準備期間	4月2日 新任教職員研修 会			
5月	5月26日 ①FD推進委員会						
6月	6月23日 ②全学FD委員会						6月19日 総会出席
7月	7月14日 ②FD推進委員会	各学部での結果報告会実 施	7月15日～31日 前期アンケート実施	7月29日、8月5日 教員のための英語研修プ ログラム:講義とプレゼン テーション(導入)			7月5日 連絡会出席
8月				8月2日、3日 教員のための英語研修プ ログラム:ゼミとディスカッ ショングループ	8月2日～9月15日 SD研修:組織と個人とマネ ジメント(オンデマンド研修)		
9月		9月13日 結果報告①(教学マネジメ ント教学マネジメント推進会 議)	前期結果公開	9月22日～9月30日 FD研修会:教育における 人権～ジェンダーの観点か ら～(オンデマンド研修)			
10月	10月20日 ③全学FD委員会	10月18日 結果報告②(教学マネジメ ント教学マネジメント推進会 議)	後期アンケート準備期間		10月1日～10月15日 SD研修会:アカデミック・ハ ラスメントにならない指導方 法(オンデマンド研修)		
11月	11月24日 ③FD推進委員会						
12月	12月8日 ④全学FD委員会					12月20日 SD研修会:学長と若手職員 との意見交換会	12月13日 連絡会出席
1月		1月6日～3月26日 4年生調査実施	1月13日～2月1日 後期アンケート実施			1月28日 ミーティング(欠席)	
2月							
3月	3月9日 ⑤全学FD委員会 ④FD推進委員会		後期結果公開				

3. 授業改善のための学生アンケート

本学では、2003年度より、授業内容・方法に関する学生へのアンケート調査「授業改善のための学生アンケート」（以下、本アンケートと略）を全学的に実施している。

2016年度より、本アンケートの実施方法を、従来の「マークシート調査方式」から「WEBアンケート調査方式」に変更した。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、後期のみの実施となった。

○ アンケート概要

【実施目的】

「大学が、学生により良い授業を提供し、授業改善を図るための手段」として、学生によるアンケートを実施する。

【実施概要】

本アンケートは、全学部・研究科（専門職大学院を除く）において、共通の設問・回答項目を用いて実施している。

前期は前期開講科目、後期は通年科目及び後期開講科目の内、受講者数が5名以上の科目を本アンケートの対象としている。ただし、演習科目及び実験・実習科目、集中科目を除く他、研究科の開講科目は各研究科が指定した科目としている。

本アンケートは、「WEB アンケート調査方式」にて実施している。ただし、授業担当者が特に希望する場合は、マークシート調査方式に替えることができる。

学生は所定の期間中の任意の機会にアンケートへの回答を行う。アンケートは無記名の回答であり、全学共通の17問の選択式回答及び1問の自由記述式回答と、学部・学科及び授業担当者が独自に作成し追加することが可能な13問の選択式回答及び1問の自由記述式回答から成る。

本アンケートの結果は、当該科目の成績評価への影響がない時期に各授業担当者へ報告される他、一定の集計を経て全教職員及び学生に開示される。その際、学部・研究科によっては科目単位での結果開示を行っている。

【その他】

本アンケートの集計結果の一部は、本学 WEB サイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)に掲載している。

このアンケート調査は、青山学院大学が授業改善を目的とし、科目担当者が授業をより充実させるために実施するものです。結果の担当教員への返却は、成績提出後に行われます。したがって、皆さんの成績評価には一切影響ありません。また、アンケートの参加は皆さんの自由意思によるものです。

The purpose of this survey is to help instructors improve the quality of their classes. The instructor will not see the results of the survey until after grade reports are handed in, and therefore your responses to the survey cannot influence your grades. Participation in the survey is voluntary.

A. 授業への取り組みに関する質問 Questions about your attitude toward this course:

1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。(複数回答可)

What is the reason for taking this course? (Multiple responses allowed)

- | | |
|------------------|---|
| 5) 授業内容に興味があったから | I was interested in the content |
| 4) 教員に魅力があったから | because of the instructor teaching the course |
| 3) 空き時間があったから | I had this period open |
| 2) 単位がとりやすいから | it looked easy |
| 1) 必須科目だから | it was a required course |

2. あなたはこの授業をどの程度受講しましたか。How often did you attend classes?

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| 5) ほとんど受講した | almost every class |
| 4) 3分の2程度受講した | about two thirds of the classes |
| 3) 半分程度受講した | about half the classes |
| 2) 3分の1程度受講した | about one third of the classes |
| 1) ほとんど受講しなかった | I rarely attended |

3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。

I made an effort to understand the subject matter.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

On average, how much time did you spend on preparation and review per lesson?

- | | |
|------------|--|
| 5) 3時間以上 | more than three hours |
| 4) 2時間 | about two hours |
| 3) 1時間 | about one hour |
| 2) 30分以下 | less than 30 minutes |
| 1) 全くしていない | I never prepared for class or reviewed after class |

B. 教員(授業内容・教授方法)に関する質問

Questions about course content and class instruction:

5. この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして授業が行われましたか。

The instructor lectured according to his/her course syllabus.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

6. この授業の難易度はどうでしたか。

How difficult was this course?

- | | |
|-----------|----------------------|
| 5) とても難しい | very difficult |
| 4) やや難しい | relatively difficult |
| 3) 適切 | appropriate |
| 2) やや易しい | relatively easy |
| 1) とても易しい | very easy |

7. この授業の進行速度は適切でしたか。

What is your impression of the pace of instruction?

- | | |
|-----------|---------------|
| 5) 速すぎた | too fast |
| 4) やや速かった | a little fast |
| 3) 適切 | appropriate |
| 2) やや遅かった | a little slow |
| 1) 遅すぎた | too slow |

8. 教員の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。T

he instruction given during this class was easy to understand.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。

The textbooks or handouts were effective for understanding the subject matter.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

10. 黒板、プロジェクター、動画配信システム(Webex 等)等の使い方は、授業実施において効果的でしたか。

(システムや通信環境の不具合に関連することは除きます。)

The instructor used teaching aids (blackboard, overhead projector, Webex etc.) effectively.

(Please do not take into consideration any errors and troubles caused by the system or network.)

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

11. この授業の提出物に対するフィードバックにおいて、担当教員の対応は適切でしたか。(フィードバックとは、課題ワークやレポート等の提出物に対して、教員からコメントを付して返却すること、回答例を受講者全体に公開・解説すること、授業時間内外で口頭でコメントすること等を指します)

The instructor gave effective feedback for assignments of the course. (Feedback includes instructors returning assignments and reports with comments attached, distributing answers and commentaries to students, and making comments both within and outside of the class period.)

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

12. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。

The instructor responded to my questions appropriately during and outside class.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

C. 授業の成果に関する質問

Questions about the outcome of this course:

13. あなたは、この授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

I think that I have achieved the course objectives.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

14. この授業の内容は興味深いものでしたか。

I found this course interesting.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

15. この授業の総合評価を5段階で評価してください。

How would you evaluate the class overall?

- | | |
|--------------|-----------|
| 5) とてもよい | very good |
| 4) よい | good |
| 3) どちらともいえない | average |
| 2) 悪い | bad |
| 1) とても悪い | very bad |

16. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)

What did you gain from this class? (multiple responses allowed)

- | | |
|---------------------|---|
| 5) 新しい知識・技能が身に付いた | I gained new knowledge and skills |
| 4) 新しいものの見方が身に付いた | I gained a new perspective |
| 3) 関連分野をさらに学びたくなった | My desire to study related fields grew stronger |
| 2) 問題発見・解決能力が付いた | I acquired the ability to discover problems and to solve them |
| 1) 人間形成に役立った | The class helped build my character |
| 0) コミュニケーション能力が向上した | My communication skills improved |

自由記述回答 Written comments:

17. この授業の良かった点、改善すべき点等について書いてください。

What aspects of this class do you think were good / should be improved?

D. 担当教員による個別質問 (希望教員のみ) Additional questions from the instructor:

18~30. 選択回答

31. 自由記述回答 Question from the instructor asking for written comment

2021年度「授業改善のための学生アンケート」実施結果

学部・研究科等		2021年度前期								2021年度後期								
		学部				研究科				学部				研究科				
		対象 科目 数 (A)	回答 科目 数 (B)	実施 率 (B/A)	平均 回答 率	対象 科目 数 (A)	回答 科目 数 (B)	実施 率 (B/A)	平均 回答 率	対象 科目 数 (A)	回答 科目 数 (B)	実施 率 (B/A)	平均 回答 率	対象 科目 数 (A)	回答 科目 数 (B)	実施 率 (B/A)	平均 回答 率	
青山キャンパス	青山スタンダード	(専任)	104	83	79.8%	6.4%	-	-	-	-	100	82	82.0%	5.3%	-	-	-	-
		(兼任)	363	275	75.8%	12.1%	-	-	-	-	333	234	70.3%	11.7%	-	-	-	-
	文学	(専任)	153	115	75.2%	7.3%	13	2	15.4%	2.1%	148	105	70.9%	6.4%	4	-	0.0%	0.0%
		(兼任)	342	260	76.0%	15.6%	1	1	100.0%	16.7%	343	239	69.7%	9.8%	0	-	0.0%	0.0%
	教育人間科学	(専任)	84	67	79.8%	8.3%	2	0	0.0%	0.0%	81	53	65.4%	5.3%	2	-	0.0%	0.0%
	※研究科は心理のみ	(兼任)	135	91	67.4%	12.9%	2	0	0.0%	0.0%	135	84	62.2%	11.2%	0	-	0.0%	0.0%
	経済学	(専任)	89	67	75.3%	4.5%	1	0	0.0%	0.0%	88	54	61.4%	3.6%	-	-	0.0%	0.0%
		(兼任)	119	75	63.0%	8.3%	0	0	0.0%	0.0%	123	55	44.7%	3.9%	-	-	0.0%	0.0%
	法学	(専任)	75	66	88.0%	5.4%	1	1	100.0%	66.7%	69	59	85.5%	5.4%	-	-	0.0%	0.0%
		(兼任)	109	72	66.1%	7.7%	0	0	0.0%	0.0%	105	61	58.1%	6.5%	-	-	0.0%	0.0%
	経営学	(専任)	99	66	66.7%	2.7%	13	0	0.0%	0.0%	103	59	57.3%	2.1%	13	-	0.0%	0.0%
		(兼任)	113	75	66.4%	10.7%	8	0	0.0%	0.0%	113	61	54.0%	9.1%	2	-	0.0%	0.0%
	国際政治経済学	(専任)	96	48	50.0%	3.2%	11	1	9.1%	1.8%	77	41	53.2%	6.7%	9	6	66.7%	9.1%
		(兼任)	148	68	45.9%	5.7%	5	2	40.0%	4.4%	148	63	42.6%	6.9%	3	1	33.3%	23.1%
総合文化政策学	(専任)	36	22	61.1%	2.3%	0	0	0.0%	0.0%	35	21	60.0%	7.4%	1	-	0.0%	0.0%	
	(兼任)	41	33	80.5%	7.2%	0	0	0.0%	0.0%	37	29	78.4%	5.8%	0	-	0.0%	0.0%	
社会情報学	(専任)	-	-	-	-	2	0	0.0%	0.0%	-	-	-	-	0	-	0.0%	0.0%	
	(兼任)	-	-	-	-	0	0	0.0%	0.0%	-	-	-	-	1	-	0.0%	0.0%	
教職課程科目	(専任)	9	7	77.8%	5.8%	-	-	-	-	5	5	100.0%	7.7%	-	-	-	-	
	(兼任)	25	21	84.0%	9.8%	-	-	-	-	29	24	82.8%	7.7%	-	-	-	-	
計	(専任)	736	534	72.6%	5.0%	43	4	9.3%	8.8%	706	479	67.8%	5.5%	29	6	20.7%	1.1%	
	(兼任)	1,370	949	69.3%	10.0%	16	3	18.8%	2.6%	1,366	850	62.2%	8.1%	6	1	16.7%	2.9%	
相模原キャンパス	青山スタンダード	(専任)	54	47	87.0%	9.8%	-	-	-	-	54	48	88.9%	7.3%	-	-	-	-
		(兼任)	132	114	86.4%	23.0%	-	-	-	-	122	108	88.5%	25.2%	-	-	-	-
	理工学	(専任)	162	141	87.0%	8.6%	35	19	54.3%	6.6%	163	133	81.6%	8.4%	22	-	0.0%	0.0%
		(兼任)	90	69	76.7%	11.0%	6	4	66.7%	4.9%	93	76	81.7%	11.4%	7	-	0.0%	0.0%
	社会情報学	(専任)	64	59	92.2%	10.7%	4	0	0.0%	0.0%	70	60	85.7%	17.1%	2	-	0.0%	0.0%
		(兼任)	27	24	88.9%	7.1%	0	0	0.0%	0.0%	21	18	85.7%	27.8%	0	-	0.0%	0.0%
	地球社会共生学	(専任)	59	39	66.1%	9.7%	-	-	-	-	51	35	68.6%	6.4%	-	-	-	-
		(兼任)	25	17	68.0%	14.2%	-	-	-	-	22	14	63.6%	7.7%	-	-	-	-
	コミュニティ人間科学	(専任)	69	53	76.8%	5.6%	-	-	-	-	78	58	74.4%	9.9%	-	-	-	-
		(兼任)	29	16	55.2%	3.0%	-	-	-	-	25	16	64.0%	5.8%	-	-	-	-
教職課程科目	(専任)	0	0	0.0%	0.0%	-	-	-	-	-	-	0.0%	-	-	-	-	-	
	(兼任)	0	0	0.0%	0.0%	-	-	-	-	-	-	0.0%	-	-	-	-	-	
計	(専任)	408	339	83.1%	8.9%	39	19	48.7%	3.3%	416	334	80.3%	9.8%	24	0	0.0%	0.0%	
	(兼任)	303	240	79.2%	11.7%	6	4	66.7%	2.5%	283	232	82.0%	15.6%	7	0	0.0%	0.0%	
合計		2,817	2,062	73.2%	8.9%	104	30	28.8%	4.3%	2,771	1,895	68.4%	7.8%	66	7	10.6%	1.0%	
(教員身分別)	(専任)	1,153	880	76.3%	6.6%	82	23	28.0%	4.2%	1,122	813	72.5%	6.9%	53	7	13.2%	1.5%	
	(兼任)	1,698	1,210	71.3%	12.1%	22	7	31.8%	3.1%	1,649	1,082	65.6%	10.6%	13	1	7.7%	5.3%	

- * 内容の有無に関わらず、受講生が提出した回答を有効回答とした。また、回答が保留(一時保存)のものは対象外とした。
- * 有効回答が1件以上ある科目を、「回答科目数」及び「平均回答率」の算出対象とした。
- * 各科目の受講者数に対する有効回答数の割合(回答率)の平均を「平均回答率」として算出した。
- * 「実施率」及び「平均回答率」は、小数点第二位以下を四捨五入した。

4. 学生意識調査

2010 年度より学生の学習に対する期待や姿勢、大学における成長感等に関する調査を全学的に実施している。

○ 実施概要

【実施目的】

1 年生（4 月実施）

- （学生にとって） 入学後の目標設定、学びと職業の関連を意識するきっかけとする。
（大学にとって） 入学時の意識、期待感を把握し、学生の意識の変化を測る起点のデータとする。

2 年生（4 月実施）

- （学生にとって） 1 年次の振り返りをもとに、自身に必要なスキルを考えるきっかけとする。
（大学にとって） 1 年間の学生生活の満足度・成長感を把握し、教育改善・学生生活の充実につなげる。

3 年生（4 月実施）

- （学生にとって） 自己分析の結果により、進路就職に結びつく、自身の強みを生かした自己 PR のポイントを明確にする。
（大学にとって） 学生生活の満足度・成長感と学生が身につけた能力を把握し、教育改善・学生生活の充実につなげる。

4 年生（3 月実施）

- （大学にとって） 4 年間の学生生活の満足度・成長感、学生が身につけた能力、本学の教育への評価などを総合的に把握し、教育改善・学生生活の充実につなげる。

【実施方法】

1～3 年生は 4 月、4 年生は後期（1 月～3 月）に実施する。

マークシート方式のアンケート調査で、「学修成果」の調査と「学業及び学生生活に関するアンケート」、3 年生は「基礎学力調査」と「学業及び学生生活に関するアンケート」を実施している。所要時間は約 90 分。

4 年生は「学業及び学生生活における満足度調査」に関するアンケートで、所要時間は約 20 分。

4 年生については WEB アンケート調査も実施している。

【調査結果】

アンケート委託業者による回答の集計と分析をおこない、結果報告書として各学生（1～3 年生）へフィードバックする。その際、前年以前に受検している場合は経年の変化も掲載する。

【調査結果の活用】

学生（1～3 年生）については、結果報告書を用いた外部講師によるフォローアップ講座（進路指導）を実施している。

また、調査結果を教授会等の場にて各学部へ報告し、学部運営の参考とする。また、事務職員を対象とした報告会を開催する等、学院関係者で情報を共有している。

2021年度 学生意識調査 実施結果

2021年10月20日
全学FD委員会

実施期間：2021年4月1日～5月31日

実施方法：オンライン

	1年生			2年生				3年生				(2020年度)4年生				
	学生数	GPS-A		学生数	学生意識調査		GPS-A		学生数	学生意識調査		GPS-A		学生数	学生意識調査	
		回答数	回答率		回答数	回答率	回答数	回答率		回答数	回答率	回答数	回答率		回答数	回答率
文	783	605	77.3%	772	542	70.2%	215	27.8%	767	450	58.7%	179	23.3%	758	243	32.1%
教育人間科	297	248	83.5%	313	217	69.3%	106	33.9%	304	185	60.9%	63	20.7%	342	97	28.4%
経済	542	359	66.2%	585	325	55.6%	101	17.3%	562	238	42.3%	78	13.9%	575	153	26.6%
法	517	418	80.9%	551	341	61.9%	145	26.3%	498	194	39.0%	70	14.1%	512	158	30.9%
経営	540	425	78.7%	552	365	66.1%	118	21.4%	555	234	42.2%	67	12.1%	548	148	27.0%
理工	677	498	73.6%	614	380	61.9%	170	27.7%	726	323	44.5%	145	20.0%	600	216	36.0%
国際政治経済	308	231	75.0%	330	184	55.8%	60	18.2%	306	119	38.9%	37	12.1%	332	84	25.3%
総合文化政策	263	203	77.2%	257	179	69.6%	62	24.1%	265	128	48.3%	47	17.7%	297	85	28.6%
社会情報	222	163	73.4%	224	149	66.5%	67	29.9%	233	93	39.9%	41	17.6%	228	72	31.6%
地球社会共生	184	121	65.8%	195	133	68.2%	33	16.9%	189	92	48.7%	22	11.6%	180	64	35.6%
コミュニティ人間科	243	191	78.6%	239	157	65.7%	70	29.3%	260	155	59.6%	62	23.8%	—	—	—
計	4,576	3,462	75.7%	4,632	2,972	64.2%	1,147	24.8%	4,665	2,211	47.4%	811	17.4%	4,372	1,320	30.2%

<備考>

- ・ 学生数は2021年5月1日時点（1～3年生）。（2020年度4年生は2021年1月1日時点の学生数）

5. FD 研修会

本学では年に1回、その時々ニーズに合わせたテーマで全学的なFD研修会を実施している。2021年度は、「教育における人権～ジェンダーの観点から～」をテーマに、スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターと共催でオンライン研修会を実施した。講師は、スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター長で法学部学部長の申恵丰教授にお願いした。なおこの講演会は、大学のみならず、女子短期大学・セカンダリー所属の教職員も視聴可能とし、職員も含む多くの参加者があった。

2021.10.20

2021年度FD研修会「教育における人権～ジェンダーの観点から～」実施報告

全学FD委員会
委員長 内田達也

1.実施概要

実施方法：研修会動画視聴、アンケート回答

実施日：2021年9月22日教授会もしくは9月30日までの間で学部・研究科が定める日時

対象者：大学所属 全専任教員（教授・准教授・助教）

助手、短大・各設置学校所属の教員、職員の希望者も教職員ポータルより視聴可能

1.参加教員数（うち助手5名）

2021.10.1時点

所属	身分						総計
	教授	准教授	助教	助手	特任教授	学部特任教授	
文学部	49	17	1				67
経済学部	33	7					40
法学部	27	8	2				37
経営学部	38	8					46
国際政治経済学部	28	10	1				39
総合文化政策学部	16	3	1				20
教育人間科学部	28	9	5	2	2		46
理工学部	47	16	15	1			79
社会情報学部	16	8	4			1	29
地球社会共生学部	13	4	4				21
コミュニティ人間科学部	18	17		2		2	39
法学研究科					1		1
総計	313	107	33	5	3	3	464

※専門職大学院・センター所属教員については10月24日まで実施期間のため集計に含まない

以上

6. その他の FD 活動

例年、本学教員を対象とし、2014 年度より開催している「教員のための英語研修プログラム」については、2021 年度も 2020 年度に引き続き全クラスオンラインでの実施とし、開講クラスごとに参加希望者を募った。結果として 2 つのクラスが開講され、延べ 12 名が参加した。

また、全学部にて科目ナンバリングを実施し、2022 年度入学生に開示した。これらの活動を含めた、各学部・研究科での FD 活動を年度末に各学部・研究科ごとに FD 活動報告書としてまとめた。

○ 科目ナンバリング

本学の学士課程における全ての科目に、教育課程上の学修段階、学修順序、学修内容等を示すコード番号を付す「科目ナンバリング」を実施している。全学 FD 委員会にて作成した全学的なコード体系に基づき、青山スタンダード及び各学部において科目ナンバリングの作成が行われた。

科目ナンバリングによって、青山スタンダード及び各学部の教育課程における科目一つ一つの位置づけが示されることにより、各年度、さらには大学生活全体における修学計画を学生が検討する際等に、その参考となることが期待される。

2021 年度末までに青山スタンダード及び各学部の全ての科目について科目ナンバリングが行われ、その結果を 2022 年度入学生に開示している。

【コード体系】

全ての科目に 7 桁の英数字から構成されるコードを付し、教育課程体系上の位置付けを示している。各桁の意味は次のとおり。

桁数	1	2	-		3	4	5	6	7
コード例	A	A	-		A	A	1	0	1
意味	学部等	学科等	教育課程上の区分		配置年次	科目番号			
			(大区分)	(小区分)					
使用文字	英字	英字	英字	英字 一部数字あり	数字	数字			

1・2 桁目：学部・学科等（どの学部・学科（・コース）等の教育課程であるかを示す）

3・4 桁目：教育課程上の区分（当該学部・学科の教育課程上の区分を示す）

（3 桁目）大区分・・・卒業要件（科目領域、科目区分等）による区分

（4 桁目）小区分・・・学修内容（学問分野等）による区分

5 桁目：配置年次（科目の配置年次（最低履修可能年次））

6・7 桁目：科目番号（科目の位置付けや科目間のつながり等を示す（科目番号の付け方は学部・学科等によって異なる））

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4			
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)			
コード ・ 意味	G	青山スタンダード	G	青山スタンダード科目	A	キリスト教理解	A	キリスト教概論		
							B	キリスト教学		
							C	キリスト教実習		
							B	人間理解	A	人文科学総合
									B	哲学
									C	言語学
									D	文学
									E	芸術学
									F	文化人類学
									G	教育学
					H	心理学				
					I	平和学				
					J	コミュニケーション				
					C	社会理解	A	社会科学総合		
							B	法学		
							C	国際関係論		
							D	社会学		
							E	経済学		
							F	人文社会情報学		
					D	自然理解	A	自然科学総合		
							B	科学技術史・科学(技術)論		
							C	数理科学		
							D	物理学		
							E	生命科学		
							F	工学		
							G	地球・環境科学		
					E	歴史理解	A	史学総合		
							B	自校史		
							C	現代史		
							D	日本史		
							E	アジア史		
							F	ヨーロッパ史		
G	考古学									
H	思想史									
F	言葉の技能	A	地域研究							
		B	言語学							
		C	日本学							
		E	英語							
G	身体の技能	A	健康・スポーツ演習							
		B	健康科学							
		C	スポーツ科学							
		D	運動実習							
H	情報の技能	A	情報学総合							
I	キャリアの技能	A	職業観・勤労観の育成							
		B	汎用能力の育成							
		C	実践能力の育成							
		D	職業選択力							
		E	仕事力							
		A	初年次教育							
L	青山スタンダード科目 (第二外国語)	F	言葉の技能(フランス語)	F	フランス語					
		G	言語の技能(ドイツ語)	G	ドイツ語					
		S	言語の技能(スペイン語)	S	スペイン語					
		C	言語の技能(中国語)	C	中国語					
		R	言語の技能(ロシア語)	R	ロシア語					
		E	言語の技能(英語・仏文)	E	英語					
		I	言語の技能(英語・外国人留学生)	E	英語					
		J	言語の技能(日本語)	J	日本語					

2022年度 科目ナンバリング コード体系表

桁数 内容	1		2		3		4			
	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)			
コード ・ 意味	L	文学部	L	英米文学科	A	イギリス文学・文化	A	イギリス文学・文化		
					B	アメリカ文学・文化	A	アメリカ文学・文化		
					C	グローバル文学・文化	A	グローバル文学・文化		
					D	英語学	A	英語学		
					E	コミュニケーション	A	コミュニケーション		
					F	英語教育学	A	英語教育学		
					G	専門科目(英語)	A	英語専門導入		
							B	発展英語		
							C	翻訳・通訳		
					L	英語	E	英語		
			J	日本語科目	J	日本語				
			F	フランス文学科	A	フランス語	A	フランス語		
					B	フランス文学	A	フランス文学		
					C	フランス語学	A	フランス語学		
					D	フランス文化	A	フランス文化		
					J	日本語科目	J	日本語		
			N	日本文学科	A	学科共通	H	日本文学・日本語基礎科目		
					B	概論・入門	A	日本文学		
					C	演習	B	中国文学		
					D	講義	C	日本語学		
					L	外国語	D	日本語教育		
							E	表象文化論		
							F	文学交流		
							G	書道		
							E	英語		
							J	日本語		
			H	史学科	A	日本史	A	日本史		
					B	東洋史	A	東洋史		
					C	西洋史	A	西洋史		
					D	考古学	A	考古学		
					E	共通	A	史学総合		
					B	教職・資格				
			L	外国語	E	英語				
					J	日本語				
					A	比較芸術学科	A	専門基礎	A	芸術学総合
							B	美術	B	美術
							C	音楽	C	音楽
							D	演劇映像	D	演劇映像
			E	共通			A	比較芸術学専門		
			B	資格						
L	外国語	E	英語							
		J	日本語							
C	文学部共通	A	文学部共通	A	芸術学					
		B	哲学・倫理学	B	哲学・倫理学					
		C	心理学	C	心理学					
		D	史学	D	史学					
		E	文学	E	文学					
		F	言語学	F	言語学					
		G	社会学	G	社会学					

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数 内容	1		2		3		4	
	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	E	経済学部	E	経済学科	A	基礎科目	A	経済学総合
					B	理論・数量	B	理論経済学
					C	応用経済	C	経済統計・情報
					D	歴史・思想	D	応用ミクロ経済学
					E	分野横断	E	金融・ファイナンス
					F	演習等	F	公共政策
					G	関連科目	G	制度経済学
							H	経済史
							I	経済思想
							J	分野横断
		K	公法学					
		L	民法法学					
		M	社会法学					
		N	経営学					
		O	会計学					
		P	商学					
		Q	人文・社会学					
		D	現代経済デザイン学科	A	現代経済デザイン総合			
				B	理論経済学			
				C	財政・公共経済			
				D	経済政策			
				E	人文地理学			
				F	経済統計			
				G	経済史			
				H	政治学			
				I	公法学			
				J	民法法学			
				K	社会法学			
				L	経営学			
				M	会計学			
				N	商学			
				O	人文・社会学			
	L	外国語	A	第一外国語	E	英語		
					J	日本語		

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3			4		
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)			教育課程上の区分(小)		
コード ・ 意味	J	法学部	J	法学科	A	必修科目		A	法学一般・基礎法・諸法	
					B	基礎科目		B	公法・人権	
					C	基本科目		C	私法	
					D	法律科目		D	社会法	
					E	演習科目		E	政治・公共政策	
					L	第一外国語科目		F	国際関係法・国際社会	
								G	外国法	
								L	英語	
								Z	演習	
			H	ヒューマン ライツ学科	A	必修科目		A	法学一般・基礎法・諸法	
					B	入門科目		B	公法・人権	
					C	コア科目		C	私法	
					D	基礎・応用科目		D	社会法	
					E	発展・展開科目		E	公共政策	
					F	演習科目		F	国際関係法	
					L	第一外国語科目		G	政治学	
								H	経済学	
								I	ジャーナリズム	
								J	コミュニケーション	
								L	英語	
								Z	演習	

2022年度科目ナンバリングコード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	B	経営学部	B	経営学科	A	基礎科目	A	会計学
					B	基幹科目	B	経営学
					C	グローバル関連科目	C	商学
					D	経営学科専門科目	D	データ科学
					E	マーケティング学科専門科目	E	経済学
					F	周辺領域科目	F	ファイナンス
			M	マーケティング学科	I	産学連携		
					J	法学		
					K	国際文化		
			L	外国語	L	第一外国語	L	英語
N	日本語							

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	S	理工学部	L	外国語	A	第一外国語	E	English
			B	Basic Experiment	A	Basic Experiment	J	Japanese
			H	物理科学科	A B C D E F	物理・共通科目 専門実験・実習・演習 輪講・卒業研究 第1科目群 第2科目群 選択科目	A	力学
							B	連続体力学
							C	熱力学
							D	電磁気学
							E	地球惑星科学
							F	生物物理
							G	物理科学総合
							H	代数
							I	解析
							J	幾何
K	確率統計							
L	微分方程式							
M	数学総合							
N	化学総合							
O	電気工学総合							
P	機械工学総合							
Q	経営システム総合							
R	情報学総合							
S	量子力学							
T	統計力学							
U	素核・宇宙科学							
V	物性物理学							
W	情報学基礎理論							
X	哲学・倫理学							
Y	インターンシップ							
A	数理サイエンス学科	A B C D E F	数学・共通科目 専門実験・実習・演習 輪講・卒業研究 第1科目群 第2科目群 選択科目	A	数理科学総合			
				B	代数			
				C	微分方程式			
				D	解析			
				E	確率統計			
				F	幾何			
C	化学・生命科学科	A B C D E F	数学・共通科目 講義 科目 実験・演習科目(基礎 実験を除く) 専門実験 輪講・卒業研究 選択必修 I 選択必修 II	A	物理化学			
				B	無機化学			
				C	有機化学			
				D	生命科学			
				E	化学総合			
				F	化学・生命科学総合			
				G	物理学総合			
				H	数学総合			
				I	代数			
				J	解析			
				K	確率統計			
				M	情報学総合			
				N	機械工学総合			
O	電気工学総合							
P	経営システム総合							
S	インターンシップ							

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	S	理工学部	E	電気電子 工学科	A	数学・共通科目	A	電子工学
					B	専門実験・実習・演習	B	制御工学
					C	輪講・卒業研究	C	電力工学
					D	専門科目	D	通信工学
							E	電気電子工学総合
							F	物理学総合
							G	数学総合
							H	代数
							I	解析
							K	微分方程式
							L	化学総合
							M	機械工学総合
							O	経営システム総合
							P	工業総合
							Q	インターンシップ
							R	モデル化技術
							S	分析技術
							T	情報学基礎
							U	メカトロニクス
							V	人間情報学
							W	情報テクノロジー総合
							X	材料力学
							Y	計測工学
							O	物理科学総合
			M	機械創造 工学科	A	学科科目	A	力学
					B	選択科目	B	流体力学
							C	材料力学
							D	設計工学
							E	熱力学
							F	機械加工
							G	機械力学
							H	計測工学
							I	制御工学
							J	生産工学
							K	機械工学総合
							L	情報学総合
							M	物理学総合
							N	数学総合
							O	代数
							P	解析
							R	微分方程式
							S	化学総合
							V	インターンシップ
							W	分析技術
							X	メカトロニクス
							Y	最適化技術
							Z	情報学基礎
							O	情報テクノロジー総合
							1	計算基盤
							2	モデル化技術
							3	経営システム工学総合
							4	電子工学
							5	電気電子工学総合
							6	電力工学
							8	工業総合

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	S	理工学部	S	経営システム工学科	A	数学・共通科目	A	分析技術
					B	専門実習	B	モデル化技術
					C	専門実験	C	最適化技術
					D	専門実験・実習・演習 (その他)	D	経営システム工学総合
					E	輪講・卒業研究	E	情報学総合
					F	第1科目群◎	F	物理学総合
					G	第1科目群△	G	数学総合
					H	第1科目群▲	H	代数
					I	第2科目群▽	I	解析
					J	第2科目群▼	J	微分方程式
					K	選択科目	K	化学総合
							M	機械工学総合
							O	インターンシップ
							P	力学
							Q	情報学基礎
							R	材料力学
							S	熱力学
							T	機械力学
							U	流体力学
							W	情報テクノロジー総合
							Y	計算基盤
							Z	メカトロニクス
							0	人間情報学
							1	電気電子工学総合
							2	電子工学
							3	計測工学
							4	機械加工
					A	数学・共通科目	A	情報学基礎
					B	専門実験・実習・演習	B	計算基盤
					C	輪講・卒業研究	C	人間情報学
					D	第1科目群	D	図形科学
					E	第2科目群	E	メカトロニクス
					F	選択科目	F	情報テクノロジー総合
							H	機械工学総合
							I	経営システム総合
							J	物理学総合
							K	数学総合
							P	化学総合
							Q	インターンシップ
							S	力学
							T	最適化技術
							U	電気電子工学総合
							V	機械力学
							W	材料力学
							X	熱力学
							Y	流体力学
							Z	分析技術
							1	モデル化技術
							2	制御工学
							4	計測工学
							5	電子工学
							6	機械加工
							7	経営システム工学総合

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数 内容	1 学部等	2 学科等	3 教育課程上の区分(大)	4 教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	I	国際政治経済学部	P 国際政治学科 政治外交・安全保障コース	A A群科目	Z 演習
				B B群科目	P 政治学
			C C群科目	I 国際関係	
				J 国内関係	
				S 政治(データ分析)	
				R 地域関係	
		G 国際政治学科 グローバル・ガバナンスコース	X その他		
			E 国際経済関連		
		E 国際経済学科 国際経済政策コース	C 国際コミュニケーション関連		
			G Global Studies Program		
			F 外国書講読		
			Z 演習		
			T 経済(理論分析)		
			S 経済(データ分析)		
			O 応用経済		
			D 開発経済		
B ビジネス・ファイナンス					
R 地域関係					
B 国際経済学科 国際ビジネスコース	X その他				
	P 国際政治関連				
C 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーションコース	C 国際コミュニケーション関連				
	G Global Studies Program				
	F 外国書講読				
	Z 演習				
	C コミュニケーション				
	A 文化				
	L 言語				
	M 方法論				
	R 地域関係				
	X その他				
L 外国語	P 国際政治関連				
	E 国際経済関連				
A A群科目	G Global Studies Program				
	F 外国書講読				
B B群科目	E Reading/Writing Skills based classes				
	F フランス語				
C C群科目	D ドイツ語				
	S スペイン語				
	C 中国語				
	R ロシア語				
	K 韓国語				
	J 日本語				
	E English for Juniors and Seniors				

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目	A	総合文化政策学
					B	政策・マネジメント科目群	B	メディア文化
					C	文化・思想科目群	C	都市文化
					D	メディア文化分野	D	アートマネジメント
					E	都市・国際文化分野	E	経済学・経済理論
					F	アート・デザイン分野	F	経済政策
					G	演習科目	G	経済史
							H	社会学
							I	人文社会総合
							J	経営学
							K	会計学
							M	法学総合
							N	政治学
							O	国際関係論
		P	地域研究					
		Q	博物館学					
		R	芸術一般					
		S	哲学・倫理学					
		T	思想史					
		U	宗教学					
		V	情報学総合					
		W	文化人類学					
		X	美学・芸術諸学					
		Y	美術史					
		Z	デザイン学					
		L	外国語	A	第一外国語	E	英語	

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	R	社会情報学部	R	社会情報学科	A	コア科目	A	社会情報総合
					B	基礎科目	B	統計科学
					C	基礎科目(数理系)	C	数学総合
					D	演習科目	D	経済学総合
					E	リエゾン科目	E	社会学
					F	エリア社会科目	F	政治学
					G	エリア情報科目	G	理論経済学
					H	エリア人間科目	H	経済政策
					I	専門自由科目	I	財政・公共経済
					J		J	経済統計
					K		K	金融・ファイナンス
					L		L	経営学
					M		M	会計学
					N		N	情報学総合
					O		O	情報社会学
					P		P	情報学基礎理論
					Q		Q	マルチメディア・データベース
					R		R	情報ネットワーク
					S		S	ウェブ情報学
					T		T	情報セキュリティ
U		U	人間科学総合					
V		V	人間情報学総合					
W		W	認知科学					
X		X	社会心理学					
Y		Y	教育心理学					
L		L	外国語	A	英語基礎科目	E	英語	
				B	英語展開科目	J	日本語	

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	P	教育 人間 科学 部	P	教育学科	O	第0群	O	教育学基礎
					A	第I群	A	教育史・教育哲学
					B	第II群	B	教育社会学・生涯発達論
					C	第III群	C	臨床教育学・特別支援教育
					D	第IV群	D	生涯学習論・社会教育学・高等教育論
					E	第V群	E	認知科学・メディア論・教育情報学
					F	第VI群	F	図書館情報学
			G	第VII群	G	幼児教育学		
					H	保育学		
					I	児童教育学		
					J	教科教育学(初等)		
					K	教科教育学(中等)		
					L	キリスト教教育論		
					A	基礎心理学		
					B	認知心理学		
		C	発達心理学					
		D	社会心理学					
		E	臨床心理学					
		F	心理総合					
		G	哲学					
		L	外国語	E	英語	A	英語	

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	W	地球 社会 共生 学部	W	地球社会 共生学科	A	共通基礎科目	A	共通基礎科目
					B	専門基礎	A	メディア／空間情報
					C	応用科目(I群)	B	ソシオロジー
					D	応用科目(II群)	C	コラボレーション
							D	経済・ビジネス
							E	学部共通
			E	Japan Studies		F	演習	
					A	Japanese Culture		
					B	Japanese History		
					C	Modern Japanese History		
		D	Japanese Economy and Business					
		E	Geo-Media and Spatial Information					
L	外国語	A	外国語科目	A	英語			
				B	タイ語、マレー語			

2022年度科目ナンバリング コード体系表

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	M	コミュニティ人間科学部	M	コミュニティ人間科学科	A B C D E F G	第0群 第Ⅰ群 第Ⅱ群 第Ⅲ群 第Ⅳ群 第Ⅴ群 第Ⅵ群	A	社会教育学・生涯学習論
							B	図書館情報学
							C	博物館学
							D	アーカイブ論
							E	教育学全般
							F	社会学
							G	コミュニティ論
							H	社会調査法
							I	社会福祉論
							J	行政学
							K	心理学
							L	スポーツ・健康科学
							M	関連領域
							N	演習
O	地域実習							
L	外国語	A	英語	E	英語			

7. 諸規則

○青山学院大学 FD 規則

(2009年3月26日理事会承認)
改正 2015年12月15日 2020年7月2日
2021年2月25日

(趣旨)

第1条

この規則は、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第25条の3及び大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第14条の3の規定に基づき、青山学院大学(以下「本学」という。)全体の授業(研究指導を含む。)の内容及び方法の改善を図るための組織的な取組であるファカルティ・ディベロップメント活動(以下「FD活動」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条

- FD活動の運営等に係る重要事項を審議するため、全学FD委員会を置く。
- FD活動の運営等に必要な事項を検討するため、全学FD委員会の下にFD推進委員会を置く。
 - 全学FD委員会及びFD推進委員会について必要な事項は、青山学院大学全学FD委員会及びFD推進委員会運営細則の定めるところによる。

(所管)

第3条 この規則は、政策・企画部政策・企画課が所管する。

(改廃手続)

第4条 この規則の改廃は、全学FD委員会、学部長会並びに各学部及び大学院各研究科(専門職大学院各研究科を除く。)の教授会の意見を聴いた後、常務委員会で協議し、理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この規則は、2009年3月27日から施行する。

附 則(2015年12月15日)

この規則は、2015年12月16日から施行し、2015年4月1日から適用する。

附 則(2020年7月2日)

この規則は、2020年7月3日から施行する。

附 則(2021年2月25日)

この規則は、2021年4月1日から施行する。

○青山学院大学全学 FD 委員会及び FD 推進委員会運営細則

(2009年3月16日学部長会承認(2021年2月5日全部改正))

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第3項の規定に基づき、全学FD委員会(以下「FD委員会」という。)及びFD推進委員会(以下「推進委員会」という。)の構成、運営等について必要な事項を定めるものとする。

第2章 FD委員会

(FD委員会の構成)

第2条

- FD委員会は、次の委員をもって構成する。
- 学長又は学長が指名する副学長
 - 大学宗教部長
 - 各学部の専任教員の中から選出する者 各1名
 - 青山スタンダード教育機構会議の構成員の中から青山スタンダード教育機構構長が指名する者 1名
 - 政策・企画部長
 - 学務部長
 - 学務部教務課長
 - 相模原事務部学務課長
- 次条に規定する委員長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する者に加えて、委員長が指名する者若干名を委員とすることができる。
 - 第1項第3号、第4号及び前項に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 前項に規定する委員は、再任されることができる。

(FD委員会の委員長)

第3条

- FD委員会に、委員長1名を置く。
- FD委員会の委員長(以下この章において「委員長」という。)は、前条第1項第1号に規定する委員をもって充てる。
 - 委員長は、FD委員会を代表し、FD委員会の業務を統括する。

(FD委員会の副委員長)

第4条

- FD委員会に、副委員長1名を置く。
- FD委員会の副委員長(以下この章において「副委員長」という。)は、委員長が委員の中から指名する。
 - 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

- 4 副委員長の任期は、FD 委員会委員の任期と同一とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副委員長は、再任されることができる。

(FD 委員会の招集、開催、成立要件等)

第 5 条

- FD 委員会は、委員長が招集し、議長となる。
- 2 FD 委員会は、必要に応じて開催する。
 - 3 FD 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
 - 4 FD 委員会の議決は、出席した委員の過半数の賛成を必要とする。
 - 5 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(FD 委員会の審議事項)

第 6 条

- FD 委員会は、次の事項を審議する。
- (1) FD 活動の企画、立案及び実施に関する事項
 - (2) FD 活動の啓発に関する事項
 - (3) 推進委員会の協議結果に関する事項
 - (4) FD 活動に関し学長が諮問する事項
 - (5) その他 FD 活動全般に関する事項

(FD 委員会の審議結果等)

第 7 条

委員長は、前条の規定による審議の結果及び当該結果に基づき実施した活動の内容を、毎年度学長に報告するものとする。

第 3 章 推進委員会

(推進委員会の構成)

第 8 条

- 推進委員会は、次の委員をもって構成する。
- (1) FD 委員会の委員長
 - (2) FD 委員会の副委員長
 - (3) FD 委員会委員の中から FD 委員会の委員長が指名する者 若干名
- 2 前項第 3 号に規定する委員の任期は、1 年とする。
 - 3 前項に規定する委員は、再任されることができる。

(推進委員会の委員長)

第 9 条

- 推進委員会に委員長 1 名を置く。
- 2 推進委員会の委員長(以下この章において「委員長」という。)は、前条第 1 項第 1 号に規定する委員をもって充てる。
 - 3 委員長は、推進委員会を代表し、推進委員会の業務を統括する。

(推進委員会の副委員長)

第 10 条

- 推進委員会に副委員長 1 名を置く。
- 2 推進委員会の副委員長は、第 8 条第 1 項第 2 号に規定する委員をもって充てる。
 - 3 推進委員会の副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

(推進委員会の招集、開催、成立要件等)

第 11 条

- 推進委員会は、委員長が招集し、議長となる。
- 2 推進委員会は、必要に応じて開催する。
 - 3 推進委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
 - 4 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(推進委員会の協議事項)

第 12 条

- 推進委員会は、次の事項を協議する。
- (1) FD 委員会からの諮問事項
 - (2) 他大学等との FD 活動に係る情報交換に関する事項

(推進委員会の協議結果)

第 13 条

委員長は、前条の規定による協議の結果を、FD 委員会に報告するものとする。

第 4 章 補則

(所管)

第 14 条 この細則は、政策・企画部政策・企画課が所管する。

(改廃手続)

第 15 条 この細則の改廃は、FD 委員会、学部長会並びに各学部及び大学院各研究科(専門職大学院各研究科を除く。)の教授会の意見を聴いた後、学長がこれを行う。

附 則

- 1 この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 青山学院大学 FD 推進委員会運営細則(2008 年 10 月 6 日学部長会承認)は、廃止する。

8. 全学FD委員会 委員一覧

○ 全学FD委員会委員

氏名		所属等	備考
委員長	内田 達也	副学長	FD推進委員会委員長
副委員長	松本 茂	経済学部	FD推進委員会副委員長
委員	塩谷 直也	大学宗教部長	
委員	杉谷 祐美子	青山スタンダード教育機構会議	2021年12月15日まで
委員	中田 恭子	青山スタンダード教育機構会議	2021年12月16日から
委員	広瀬 大介	文学部	FD推進委員
委員	杉本 卓	教育人間科学部	
委員	関 武志	法学部	
委員	久保田 進彦	経営学部	FD推進委員
委員	田崎 勝也	国際政治経済学部	
委員	宮澤 淳一	総合文化政策学部	
委員	米山 淳	理工学部	
委員	寺尾 敦	社会情報学部	FD推進委員
委員	林 拓也	地球社会共生学部	
委員	梅垣 千尋	コミュニティ人間科学部	FD推進委員
委員	金子 絹子	政策・企画部 部長	
委員	乃美 浩一	学務部 部長	
委員	伊藤 大輔	学務部教務課 課長	
委員	鴨志田 壽生	相模原事務部学務課 課長	
事務局	中村 義	政策・企画部 政策・企画課/情報分析課 課長	
事務局	萬年 知美	政策・企画部 政策・企画課	
事務局	川原 愛美	政策・企画部 政策・企画課	
事務局	伊藤 和也	政策・企画部 情報分析課	

2021 年度

青山学院大学 FD 活動報告書

発行日 2022 年 7 月 1 日

発行 青山学院大学 全学 FD 委員会
政策・企画部

150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 8 号館 3 階

Tel. 03-3409-4165 Fax. 03-3409-9423

発行責任者 内田 達也